

街を行く

第66回 国分寺 Kokubunji

昔のセレブ別荘地、いまのベッドタウン

国分寺は小生が学生の頃に周辺に住んでいたことから、比較的馴染のある街でした。しかしながら久方ぶりに歩いてみると、街並のすべては変貌しており、当時の記憶を辿るところが新発見ばかり。もっとも学生の頃は、いまのように街の歴史や構造・機能などを意識的・客観的に捉えて何かを発見する術を持っていませんでしたが…。

皆さんはこの街の名前の由来を御存じですか？ 国分寺は奈良時代に、時の聖武天皇が仏教による国家鎮護のために日本全国に建立した寺院がはじまり。よって国中の至るところに国分寺の地名や寺院があるのです。したがって、この街は“武蔵の国の”国分寺というのが本来の呼び名かもしれませんね。

また、いまから60年前に、日本初のペンシルロケット発射実験が行われたのもこの街です。いま話題の「ふるさと納税」をすれば「ペンシルロケットのペン」が貰えちゃうみたいですよ！

新しく発見したもう一つは、駅前にある素晴らしい庭園「殿ヶ谷戸庭園」の存在。園を訪ねた時はあいにくの雨天でしたが、駅前の雑踏を忘れるほど麗しの別世界でした。もともと武蔵野の地であり、明治から戦前にかけては都心で暮らす超セレブ達の別荘地。セレブのなかでも別格である三菱創業家・岩崎家別荘もこの庭園にあります。オリジナルは三菱合名の部長が建てた別荘で、それを建て直し、湧水を利用して自然の山野草を作り出したそうです。昔のセレブはスケールが違いますね。



国分寺駅前にある殿ヶ谷戸庭園の庭と岩崎邸

高級車や派手なハイライズのペントハウスに住むだけでは、真のセレブとは呼べません。文化、文化ですよ。文化を愛し歴史に残るような物を創り出さなければ後世に名前は残りません。ちなみに、別荘所有者名簿をめくると神田や上野の住所が多く、当時都心一等地が“東”東京にあったことがわかります（たしかに、岩崎家のお屋敷も湯島にありますものね）。

そのようなこの街も、いまでは別荘地ではなく大規模マンション開発を多く見ます。昔の都心から離れた閑静な別荘地もいまでは東京へ通勤するサラリーマンのベッドタウンです。JR中央線で考えると八王子や立川、国立よりも都心寄り吉祥寺や三鷹の次の街です。

東京郊外の都市を考えると、今後は総じて競争力がなくなってくるでしょうね。国分寺が今後、街として競争力を維持

していくためには、名前の由来やペンシルロケット、かつてのセレブの別荘地という売りだけでは少し弱い。それらを凌駕する強いコンセプトを持った他の街には無いストロングポイントが必要でしょう。それは、安直につくればいいというハードではなくて、頭を使ったソフトなサービスが勝負どころでしょう。税制優遇などもそのひとつでしょうね！

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。